

## 環境科学センターにおける環境学習の取組

○鷺山享志・瀬谷 昇・磯崎優子（環境情報部）

当センターでは、環境保全活動や環境学習等を実践する「環境学習リーダー」を養成するとともに、既に活動を行っている環境学習リーダーのスキルアップをお手伝いするなど、環境学習リーダーとして県民の環境保全活動をお願いしている。

また、県民の皆様が環境保全活動を行っていくために環境学習の機会を提供し、その活動のサポートも併せて行っている。

ここでは、最近の環境学習の取組状況について紹介する。

### 1 はじめに

産業公害は鎮静化したが見、都市・生活型公害が顕在化し、更に地球温暖化等の地球規模の環境問題へと移り変わっている。こうした問題の多くは、市民の日常生活そのものに根差したものであり、解決するためには、市民の一人ひとりが環境に配慮した生活と社会の構築を目指すことが必要となる。

当センターでは、平成3年度に全国に先駆けて、環境学習施設を開設し、また、平成5年度からは環境学習指導者養成事業を開始した。

一方、国は平成15年7月（平成23年6月法改正）に「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」を公布し、国民一人ひとりの環境保全活動の推進や自治体における環境教育の推進を求めている。

また、県では環境基本計画を平成17年度に改定し、その中で「環境実践者の育成支援と活用システムの整備」に向けた取組みを進めており、環境学習の重要性はますます高まっている。

### 2 環境学習の取組

当センターでは、環境問題に意識の高い県民が自発的に学びを実践できる場を提供することが大切と考え、生涯学習としての環境学習に取り組んでいる。

ここでは、社会人を対象とした講座の開設と実践的なスキルを身につけられる環境学習施設を活用した環境学習講座の取組みについて紹介する。

### 3 環境学習講座の開催の考え方

環境学習リーダー<sup>\*</sup>の養成及び活動支援のため、環境学習リーダー養成講座、環境活動実践講座、スキルアップ講座を開設している。

〔 ※ 環境学習リーダとは、環境保全活動を自らが実践するだけでなく、環境保全活動に対する助言、援助を担う存在である。 〕

### 3. 1 環境学習講座の種類と概要等について

#### 環境学習講座の概要

対象	講座名	概要	科目設定
環境学習リーダーになって活動を行おうとする県民	環境学習リーダー養成講座	環境実践活動を支える幅広い基礎知識を提供する	環境学習リーダーとなるために必要な技術習得を主体とする科目
	環境活動実践講座	環境実践活動行う方法論を提供する	具体的に活動するために必要な環境測定などの技術習得を主体とする科目
環境学習リーダーとして活動している県民	スキルアップ講座	環境問題に関する最新の知見を提供する	環境学習リーダーとして必要な最新の技術情報を提供

★環境学習リーダーに求められる技術（役割を果たすために必要な技術）

- ① イベント観察会などの企画や現場での指導
- ② 環境学習会などの企画と運営
- ③ 指導者として必要な環境問題の知識

## 4 平成 27 年度に実施した環境学習講座の概要

### 4. 1 環境学習リーダー養成講座開催の趣旨

環境学習リーダーは、環境をこれから学ぼうとする県民を対象として地域活動を展開することが期待されることから、求められる技術（3. 1で前述）を幅広く習得するために必要な内容を盛り込んだ講義を企画した。

#### 4. 1. 1 環境学習リーダー養成講座の実施概要

ア 開催日時

平成 27 年 10 月 3 日(土)から 11 月 14 日(土)まで毎週土曜日の全 7 日間

イ 講義内容

講義内容（※ ①から⑦は、1日目から7日目を表す。）

科目	目的・概要
① 環境学習論	環境学習指導者向け概論の解説
① 環境学習プログラムの体験	環境学習指導にどう活かすかを体験
② 環境科学センターの紹介と見学	施設見学、施設の利用について説明など
② 神奈川の環境	本県環境の現状と課題を解説
③ 野外環境学習の実践法	環境学習の手法を体験的に学ぶ
④ 市民活動とは	運営方法等を実例とともに解説
④ 大気環境学習の手法	大気環境学習を体験する
⑤ 流域下水道のしくみと施設見学	流域下水道のしくみと施設見学
⑤ 藤沢市の廃棄物とリサイクル	藤沢市の廃棄物処理の現状と取組を解説

⑤ リサイクルプラザ藤沢の見学	見学、施設運営の実例紹介
⑥ 環境リスク評価入門	環境リスクを評価する手法を学ぶ
⑥ (出前講座)新エネルギー講座	中学校への出前授業の実例紹介
⑦ ワークショップの手法	ワークショップの手法を学ぶ

ウ 開催結果

受講者 : 40名

年齢 : 10歳代から80歳代まで幅広い層が参加。

参加者意見 : ○環境学習にもいろいろな分野があることを知り、充実したカリキュラムだった。

○講座による、情報等の受け取りから「知識」を自分のものとして人に伝えられるような「実践」の場が必要と考える。

#### 4. 2 環境活動実践講座開催の趣旨

環境活動実践講座では、自ら率先して地域環境の測定や観察を行い、それを通じて地域環境の保全に取り組んでもらうため、求められる技術(3. 1で前述)②と③を習得するために必要な内容を盛り込んだ講義を企画した。

##### 4. 2. 1 環境活動実践講座の実施概要

ア 開催日時

平成27年5月30日(土)から6月27日(土)まで毎週土曜日の全5日間

イ 講義内容

講義内容(※ ①から⑤は、1日目から5日目を表す。)

科目	目的・概要
① 水生生物の概論について	水生生物について理解を深める
① 水生生物等の調査手法	水生生物調査手法等を学ぶ
② 水質や大気の結果・評価	行政の調査内容と結果について
② ③ 簡易測定法	水質・大気の簡易測定手法を学ぶ
③ 生態系調査手法について	自然を観察するための手法を学ぶ
④ 水生生物の同定手法について	水生生物を同定する手法を学ぶ
④ 水質の公定法による分析	CODの分析手法を学ぶ
⑤ 環境科学センターの取組み	環境課題について理解を深める
⑤ 環境調査実践手法	環境調査計画の企画技法を通じて学ぶ

ウ 開催結果

受講者 : 18名

年齢 : 30歳代から70歳代まで幅広い層が参加。

参加者意見 : ○実習を主とした講座が多く、本当に身近な問題として意識できた。

#### 4. 3 スキルアップ講座開催の趣旨（全2回）

環境学習リーダーとして必要な最新の技術情報を提供した。

##### 4. 3. 1 スキルアップ講座の実施概要

ア 開催日時 平成27年8月13日(木)及び平成27年12月4日(金)

イ 講義内容

(第1回)「神奈川県における微小粒子状物質(PM2.5)の実態及び大気汚染システムと大気汚染物質の濃度予測」

(第2回)「近年の気象災害と備えについて」

(地球温暖化防止研修と連携実施)

ウ 開催結果(第1回のみ)

受講者 : 40名

年齢 : 30歳代~70歳代まで幅広い層が参加。

参加者意見:○レベルの高い話題であったが先端の話が聞けてよかった。

#### 5 これまでの取組の評価と今後の方向性

##### 5. 1 これまでの評価

当センターでは、平成5年度から指導者育成事業を開始し、平成26年度までに767名がこの講座を修了した。修了者の有志で平成8年に「神奈川県環境学習リーダー連絡会」を結成(平成14年に「神奈川県環境学習リーダー会」に名称変更)、その後、独自の活動を展開し、平成19年には、このリーダー会を核として「NPO 法人神奈川県環境学習リーダ会」を設立し、様々な取り組みを進めている。取組の一例として、従来、県主催で開催していた「夏休み子ども環境体験教室」の共催実施、また、県の環境学習講座の運営に際して、講師や補助を担うなど、環境学習リーダーとしての役割を組織的に担っている。

また、県事業への協力以外にも小中学校への出前授業等、県内各地で活動を展開し、環境学習リーダーとして環境保全活動を積極的に展開している。

なお、NPO 法人神奈川県環境学習リーダー会以外にも、多くの講座修了者が団体又は個人で環境学習活動を行っており、環境保全に貢献している。

##### 5. 2 今後の方向性

- ① 引き続き、環境学習講座を効果的に開催し、地域で活動する環境学習リーダーの育成に努める。
- ⑥ 講座以外でも、環境保全活動を行っている県民や、総合学習、自由研究で身近な環境を調べる学生に対して、実習室での実験や実習、環境学習室でワークショップなど学習施設を使用して指導することで、県民活動の支援や将来の環境保全活動実践者の育成に努める。
- ⑦ 環境学習の拠点施設としての利用促進を図り、年間施設利用人数3,000人を目標として、今後も、環境学習室、実習室等を環境学習の場として広く県民の皆様に提供する。